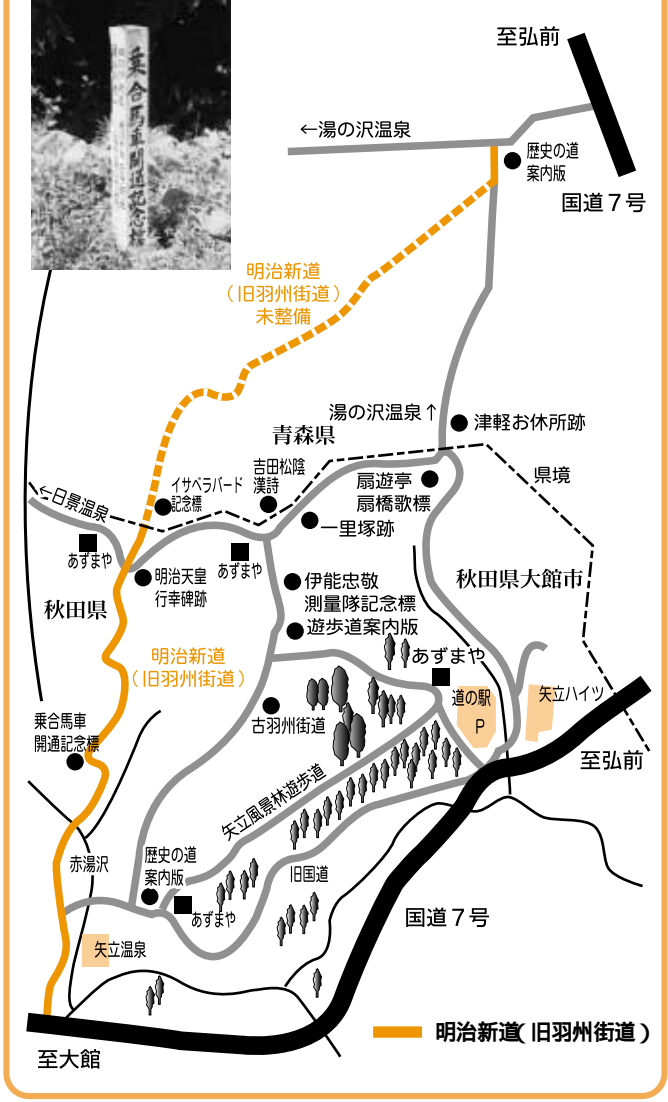


矢立峠歴史の道略図



光り輝く青空の下であるならば、もつ一度この峠を見たいとさえ思う。しかしいずれにもまぎって樹木がすばらしい。孤独で、堂々としており、うす暗く厳かである。その巨大な杉は船のマストのように真っ直ぐで、光を求めてはるか高くまでその光端の枝をのびている。著書のまま。

バードが絶賛した矢立峠「明治

新道」は、釈迦内村日景弁吉、日景長之助などが計画し、明治10年1月着工。難工事の末7月に竣工している。大館市史年表編を参考。秋田県と青森県境には砂岩を深く切った方尖塔があり、旅行者が休息する丸太の腰掛けなども配置され、3間から4間の幅で馬車が通れる峠でした。

実際に、バードが通った明治新道(旧羽州街道)を青森県の湯の沢温泉まで歩こうとしましたが、県境を過ぎてすぐに、道路が未整備となっていて、残念ながら踏破することができませんでした。秋田県側には、乗合馬車開通記念標や「イザベラ・バード記念標」などがあり、当時をしのぶことができます。

きまず。ただ、残念なことに、峠からの展望は、背の高い杉に覆われ、ほぼできない状況であり、美しい眺めを楽しむことはできませんでした。



碓ヶ関村の歴史の道案内板

第19回公演
大館市民劇場 10月30日(土) 開演18時30分
小坂町康楽館 11月6日(土) 開演18時30分
市民文化会館大ホール

矢立峠に虹が立つ

入場料
一般(高校生以上) 1,000円(当日1,200円)
小・中学生 500円(当日700円)
下記プレイガイドでお求めください。

いかがでしたでしょうか。この取材を通して、明治維新直後の北日本を外国人が、しかも女性が旅

終わりに

この後、北海道に渡り、9月に船で東京に戻って、日本奥地紀行を終えるのです。

精彩な筆致で描かれている「日本奥地紀行」は、文明開化から遠く離れた農村の姿が生々しく描かれ、100年の歳月を経た今もお、読む人の心を離さないものがあります。

この後、バードは5回ほど日本を訪れ、進歩してゆく日本を目の当たりにすることになります。

旅の終わりに

この女史を、我が市民劇場がどのように表現できるのか、このリポートを読み、そして「矢立峠に虹が立つ」をご覧いただき、皆さんからの率直なご意見伺わせていただければ幸いです。

最後に、取材にご協力くださいました多くの方々に感謝を申し上げます。

参考資料
日本奥地紀行、イザベラ・バード旅の生涯、大館の歴史、大館市史、川西町埋蔵文化財資料展示館、ハイジアパーク南陽のイザベラ・バード記念コーナ、ほか